

第7回 VTS 勉強会@東京 報告レポート

はじめに

3月末に行われた6日間のStep3のセミナーが終了してから一か月が経過した。久しぶりに顔を合わせるようになった東京での第7回目の勉強会は、Step3で学んだことを確認したうえで、今後どのようにこの勉強会を進めていくのか確認する作業が行われた。ここではその内容を報告する。

日時：2012年4月25日（水） 19：00～

会場：アーツ千代田 3331 会議室（東京都千代田区）

参加者：6名（受講生4名、他2名）

Step3で学んだことを身につけていくために必要なこと

Step3のセミナーでは主に、ファシリテーションの際のフレーミング手法を考察することや鑑賞者のレベルに応じた作品選びに費やす時間が多かったように思う。今後はどのようにしてそれらを身につけていくのかを話あった結果、以下の点を確認した。

フレーミングについて

これまでの勉強会の記録はすべて映像にして残してある。それらを効果的に活用するためにも、ファシリテーター及び鑑賞者の発言を文字起こした資料を作成し、改めてファシリテーターのコメントをフレーミングしたものに置き換えてみる。そのコメントを受けた後では、鑑賞者の発言にどのような変化が起こるのかを確認していきたい。また、敢えて鑑賞者が意図する以上に踏み込んだフレーミングを行うことで、鑑賞者の中にどのような感情が沸き起こるのかを確認してみたい。

鑑賞レベルと作品選び

勉強会のメンバーで UVE の Image Set を読み解いていくことで、段階的に難易度が高くなっていく様子を改めて確認していくことを話し合った。ある作品から次の作品へと付け加えられている細かな要素が理解できるようになると、日本の鑑賞者にふさわしい作品に置き換えることや、特定のグループ用に新たなイメージセットを作り出すことも可能になるのではないかと。今後の VTS を行うことのできる可能性がある場として、インターナショナルスクールや塾という提案があったが、限定された対象であれば、それだけ戦略的なものを作り出すことができると考えられる。

ファシリテーターの養成に関して

メンバーの中には既に VTS のファシリテーターの養成に取り組んでいる者がいる。まだ未消化の部分が残る中での作業になるが、その不安を解消する場としてこの勉強会を活用していきたいという意見があった。VTS セミナーに参加していない人に VTS を伝えることで新たな気づきが生まれるとも考えられるので、その場で生じた悩みを参加者で共有することができれば参加者全員にとって実りの多いものとなるだろう。また、質の高いファシリテーターを養成するためにも、コーチングのスキルを磨いていくことが重要であると確認し合った。

VTS セッションを VTS する

今回のセミナーの終盤に、受講生に相応しい作品として一つの画像が提示され、実際に VTS のセッションが行われた。翌日、受講生の中からそのセッションの内容が、本当に豊かで実りのあるという意味で RICH な会話になっていたのかという疑問が投げかけられていたこともあった。

今回の東京での勉強会でも、そのセッションについて引き続き話し合いが行われ、それぞれが意見を出し合うことができた。「RICH な会話とは何かが更にわからなくなった」「受講生の中に“私も言いたい”という雰囲気を感じられたので、教師がいなくとも生徒同士で活発な意見交換を行えるという意味で RICH なのではないか」「本当にあの作品が私たちにふさわしい作品だったのか」といったような内容である。

鑑賞レベルに応じた作品選びについては、今後さらに考察を重ねていく予定である。VTS セミナーの最後に体験したセッションについてのそれぞれの感想は、「そこで何が起こっていたのか」「それはどこから感じられたのか」「他に何かないか」という VTS の三つの問いをくりかえしながら、また別のものへと変化していくことになるのではないだろうか。

おわりに

Step3 が終了し、それまでの疑問が解決できてスッキリしたという意見から、新たな学びへのきっかけとなったという意見まで様々なものがあつた。今後、それぞれ違う現場で VTS を実践していくことになると思うが、勉強会を上手く利用し、お互いを切磋琢磨し合えるような勉強会として継続していけることを希望している。